

SS2010 WG5 ポジションペーパー

自己紹介

2005年、株式会社クレスコ（システム開発）入社。SEとしてシステム開発に携わる。参加プロジェクトは、金融系、流通系、運輸系の保守開発案件。2008年、株式会社翔泳社に入社。現在、企業IT系のWebマガジン「EnterpriseZine」の編集を担当。

参加の動機

現在、企業ITをテーマとした媒体の編集に携わっているが、その主役であるユーザ企業での勤務経験がないため、当事者意識を身につけたいと考えている。皆様が業務上どのような課題意識をもっておられるのか伺いたいと考え、参加させていただくことにした。

ユーザ主導のシステム開発

私が体験した限りでは、ユーザ企業自身が開発に積極的に関与している案件はなかった。あくまでも、プロジェクトマネジメントやコミュニケーション面に重点を置き、技術的な面を軽視する傾向が強かったように思う。ただし、技術面軽視はユーザ企業に限った話ではない。少なくともかつて所属していた組織、およびその協力会社はSIという技術を売り物とする生業にもかかわらず、社員の技術向上を促進する姿勢には欠けていた。たまたま参加したプロジェクトで触れた断片的な知識をスキルセットとしている技術者が多かったように思う。時折、自然発生的に本質的な開発スキルを身に付けた人たちが複数のプロジェクトが取り合っていた光景を記憶している。ISRFなどの調査でも技術力の不足が業界全体の懸案となっている感がある。内製するにせよ、SIモデルを継続するにせよ、分厚い技術者層の養成が必要ではないか。

ユーザとSIベンダーの契約

アジャイルの採用に当たって一番の障壁となるのが契約形態だという話はよく耳にする。ユーザ企業のリスクテイクが妨げとなっているとSI側は主張しているが、ユーザ側から見た意見はどうか？

ソフトウェア・エンジニアリングはどの程度浸透しているのか

ソフトウェア・エンジニアリングとは国内の技術者の間ではどの程度浸透しているものなのか？

少なくとも、私がかかわった人物の中で、それに通じている人はごく少数の人々に限られていたように感じる。また、チームの技術者が最低限の技術を備えていない状況で、緻密な計算に基づいて精緻なプロジェクト計画を立案する管理者には、若干の違和感というか危なげのようなものを感じた記憶がある。また、最近では、より現実に即した（？）アジャイルという側面からのアプローチもあるが、皆様のお考えも伺いたい。

情報システム部門の人々の情報収集手段について

企業 IT をテーマに掲げる媒体は数多いが、普段どのような情報収集をされているのか。また、外部から仕入れた情報をどのように扱われているか、どのように業務に活用されているのか、などについてぜひ伺いたい。